

施策の基本方針	具体的な展開方策	内容	推進事業	進捗状況	課題
1. 農業関連資源を生かした地域振興の実現		○藤島地域に集積する農業関連施設やエコタウンの取組みなど、庄内農業の中心である藤島の魅力を積極的に発信し、農業を基幹産業とする藤島地域の振興、活性化を推進する。 ○地域住民、特に子ども達に庄内農業の未来や魅力に関心を持たせ、地域への誇りと愛着を育む取組みを推進する。 ○庄内農業高等学校が、より魅力ある学校として発展することを支援するとともに、地域の活性化を図るため、地域や関係団体等との連携強化を図る。		○農業を基幹産業とする藤島地域の農業関連施設・エコタウンの取組み等を通じて藤島の魅力が発信・周知されてきた。さらに鶴岡市全域への拡大を図っているが、有機農業そのものの拡大は緩やかな伸びとなっている。 ○地域の子どもの地域への誇りと愛着を育む取組みが継続実施されている。 ○農業高校としての特性を活かした庄農と地域・各種団体と連携した取組みが着実に実施されている。	各方面で様々な推進している活動が連携し藤島地域が一体となった地域振興・活性化事業の展開が望まれる。
1. 人と環境にやさしい農業の推進		○地域の主要産業である農業を核とした「人と環境にやさしいまちづくり」をまちづくりの中心に据え、エコタウンプロジェクトの推進など、環境にやさしい安全・安心な農産物づくりを積極的に進める。 ○環境に配慮した有機農業をはじめとする、人と環境にやさしい藤島地域の農業を引き続き推進するとともに、藤島地域にのみならず鶴岡市全域での取組みへと発展させる。 ○水稲以外の地域の特産となる新たな農産物の生産振興と商品開発を進め、地域産業の創出を推進する。	①消費者に信頼され愛される藤島地域農業の確立（地域活性化事業（藤島）人と環境にやさしい農業推進事業） ②生活と産業を結び循環とリサイクルシステムの普及促進（土づくり推進事業） ③都市消費者等との交流の促進（人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク連携事業） ④地産地消の推進（つるおか食の祭典） ⑤地域の特産となる新たな農産物の創出（鶴岡産機能性野菜地域利活用推進事業）	○有機農業推進協議会が中心となり、有機農法の先進地事例・有効技術の周知拡散が図られている。有機農業拡大を推進に資する消費拡大につながるための都市消費者との交流推進が図られてきた。  ○地域の特産となる新たな農産物として取り組んだ「すいおう」は、各取組みや加工に欠かせないパウダー化に成功した。昨年度10周年シンポジウムを契機に、本年度、具体的な取組みを推進する「鶴岡産すいおう地域利活用推進委員会」が設立。	・有機農産物生産に意欲的に取り組む機運醸成につながる消費拡大の展開  ・有機農業推進協議会への支援の強化と新規有機農業者への技術の伝承  ・すいおうの新たな加工活用や飲食店での提供商品開発、生業販売体制構築などによる消費拡大
2. 米作りがさかんな庄内農業の中心である藤島の情報発信		○藤島地域の農産物の知名度アップと販路拡大に向け、集積する農業関連施設や人と環境にやさしい農業の取組みなど、庄内農業の中心である藤島の魅力を積極的に発信するとともに、農業分野における特色ある資源をいかした地域振興を一層推進する。	①ミニチュア映像等による藤島の紹介 ②ビデオ等による市独自認証の特別栽培米の紹介 ③東田川文化記念館を活用した地域農業の情報発信（未着手）	○市独自認証特別栽培米、関連する農業施設の紹介も含めた藤島の年間を通じた米づくりのミニチュア映像がH28年度完成し、HPにアップし情報発信している。	・藤島地域の農産物の知名度アップとなるミニチュア映像の効果的な活用
3. 食農教育等を通じたふるさと意識の醸成		○地域の未来を担う子どもたちに、地元の主産業である農業について食農教育や農業体験を学習など学ぶ機会を提供し、庄内農業の未来や魅力への関心を深め、地域に対する誇りと愛着を育む取組みを進める。 ○身近な環境に対する関心と理解を深め、環境保全、よりよい環境を創造する行動力や能力を育む取組みを推進する。	①次世代を担う子どもたちの食農教育を通じたふるさと意識の醸成（人と環境にやさしい農業推進事業） ②水田による循環保全機能の学習（田んぼの生き物調査）	○毎年、藤島地域内の各小学5年生を対象に、田植え後の初夏の田んぼで、田に生息する生物調査を実施している。また秋には収穫、その後の炊飯体験など生産者を先生とした人と環境にやさしい農業の出前授業を実施してきた。 それら体験・学びを通じて身近な環境に対する関心と理解を深めるとともに、地域に対する誇りと愛着を深める取組みを推進している。	・藤島地域外の市内全域への普及による周知拡大  ・年間を通じた継続的な体験学習の実施
4. 庄内農業高等学校と地域との連携推進		○庄内農業高等学校の伝統と教育活動の特色などを踏まえつつ、より魅力ある学校として発展することを支援するとともに、地域の活性化を図るため、庄内農業高等学校地域連携協議会を中心として、庄内農業高等学校と地域や関係団体などとの連携強化を進めます。	①庄内農業高等学校地域連携事業の推進（食品等加工品の商品化支援、伝統野菜等の栽培・研究、農高出前講座・地域農業研究WS開催、地域公開講演会開催、加茂水産高校とのコラボ、地域交流農園事業など）	○農業高校の特性を活かした米等の農産物の生産・加工。また新たな特産品の創出に向けてのプロセスの学習等を通じ、生徒の育成を促す事業を実施。 ○庄農で花や野菜の苗を育成している利点を生かし、それらの育成を地域住民と一緒にやる場の創出により、地域の人々との交流も図られてきた。	・少子化による入学希望者の減少に対する連携 ・地元就農および地元定着の促進 ・これからの地域づくり・活性化担い手人材育成につながる連携

1-1 人と環境にやさしい農業の推進

横浜市みどり保育園グループ給食利用、特栽培米田植え稲刈り体験



本市認証特栽培米を平成18年度より給食に提供。年2回の来鶴時に栽培農家と交流を行っている。

首都圏イベントにおける安全・安心な農産物の販売



平成11年より練馬区光が丘のイベント参加。継続参加により関係が強固となっており、今後も継続PRを実施。

安全・安心な農産物の生産農家による首都圏出前授業



平成26年度より首都圏小学校で出前授業を実施。練馬区の4つの小学校で出前授業を行うとともに学校関係者へPR。

都内米穀店へ販路拡大依頼



平成28年度より、練馬区と協力し、独自認証米を販売店等にPR。首都圏の販売店によるマッチングフェア・商談会参加し販売促進、流通量の拡大を図る。

1-2 米づくりがさかんな庄内農業の中心である藤島の情報発信

ミニチュア映像による情報発信



藤島地域の年間を通じた米づくりのミニチュア映像を作成し、H28年度からHPにアップし情報発信している。より効果的な活用方法を検討する。

1-3 食農教育等を通じたふるさと意識の醸成

田んぼの生き物調査による地域環境の再発見



H18年から継続実施。H29から非農家世帯も多くなっているため、保護者も含めた田んぼの生き物調査を実施。



平成29年度は更に田んぼや米づくりへの理解を深めたいとの地元小学校の要望もあり、有機農家による特別授業も実施した。秋には授業で有機米の食べ比べを行い、人と環境にやさしい農業への理解を更に深める。

1-4 庄内農業高等学校と地域との連携推進

食品等加工品の商品化支援



庄農産農産物、在来作物等を活用した食品等の加工、商品化への支援。H27:米粉シフォンケーキを産直で販売。H28:地元レストランに加工品を提案。

加茂水産高校とのコラボ



両生徒会リーグジョブで、農業、漁業を学ぶ両校の強みを活かしたコラボ菓子を企画。H28つるおか産業まつりで試食会を開催。H29秋の本格的な商品化に向け取り組んでいる。

地域公開講演会開催



H25以降、地域農業や地域づくり、地域を担う人材育成を目的に、先進的な農業など第一線で活躍する外部講師を招聘し、地域公開講演会を開催。

伝統野菜等の栽培・研究



在来作物、伝統野菜、機能性野菜（翠王）など、地域に根付いた作物栽培に取り組み、H28は地元漬物会社と共同で、外内島きゅうりピクルスを開発。ふじしま大根の加工も継続して取り組んでいる。

農高出前講座・地域農業研究WS



農高出前講座：企業とのコラボした6次産業化としてH28年からババイヤの加工品開発に向け栽培研究をスタート

地域農業研究WS：東北公益大学出前講座を開催（H28）H29には同大学地域課題解決（地域活性化）：庄内柿産

地域交流農園



庄農高と地域福祉委員会、地域住民が連携した「農福連携プロジェクト」の取り組みの一環としてH28より実施。野菜の栽培・収穫を行い、農業を通じた地域交流活動を展開。

主な事業内容・実施状況

人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク連携事業【H29新規】



藤島地域へ授業等で訪れる学生らが、地域の観光資源を体験し首都圏で情報発信する。

東洋大学社会学部「庄内藤島調査の履修生が運営するSNSやFacebookを活用するほか、学生自らが立ち上げたブログにおいて鶴岡市及び藤島地域資源をPRする。



さらには、鶴岡市への若年層の移住希望者を増加させる



鶴岡産機能性野菜地域利活用推進事業【H29新規事業】



平成17年から推進してきた機能性野菜すいおうの新たな加工活用や地元飲食店で提供商品を開発する。